クレメンスの第一の手紙

ローマのクレメンス
藤遥　制作

あいさつ、1〜6章　かつての姿とねたみの害

0:1 ローマに寄留している神の教会から、コリントに寄留している神の教会へ。神のみこころのうちに、わたしたちの主イエス・キリストによって召され、きよめられた人たちへ。全能の神から、イエス・キリストによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かにありますように。

1:1 愛する者たちよ。わたしたちの身に、思いがけない災難と不幸が次々に起こりました。そのため、あなたがたのあいだで争われている事柄に心を向けるのが、遅くなってしまったと思います。すなわち、あの内紛のことです。それは神に選ばれた者たちにはまったく縁のない、汚れた、神を恐れない内紛です。向こう見ずで身勝手な、わずかな者たちが、それをひどい狂気にまで燃え上がらせました。あなたがたの名は、品位があって名高く、すべての人に愛される名でした。それが、ひどくそしられるまでになったのです。1:2 実際、あなたがたのところに滞在して、あなたがたの徳に満ちた確かな信仰を認めなかった人がいたでしょうか。キリストにある、慎み深く寛容な敬虔に感心しなかった人がいたでしょうか。あなたがたの手厚いもてなしの気風を、言い広めなかった人がいたでしょうか。あなたがたの完全で誤りのない知識を、幸いだとたたえなかった人がいたでしょうか。1:3 というのも、あなたがたは人をかたより見ることなく、すべてを行っていました。神の定めのうちを歩み、あなたがたの指導者たちに従っていました。あなたがたのところの年長の者たちには、ふさわしい敬意を払っていました。若い者たちには、節度のある、品位あることを考えるように命じていました。女たちには、責められるところのない、品位ある清い良心ですべてを行い、夫をふさわしく愛するように命じていました。また、従順の規範のうちにとどまり、まったく慎み深く、品位をもって家のことを切り盛りするように教えていました。

2:1 あなたがたはみな、へりくだった思いを持ち、少しも高ぶりませんでした。人を従わせるよりも、むしろ自分が従い、受けるよりも、喜んで与えていました。キリストが与えてくださる旅の糧で満ち足り、そのことばに注意深く耳を傾け、心の奥深くに抱いていました。そして、キリストの苦しみが、あなたがたの目の前にありました。2:2 こうして、深く豊かな平和が、すべての人に与えられていました。善を行うことへの、飽くことのない願いも与えられていました。聖霊も満ちあふれて、すべての人に注がれていました。2:3 あなたがたはきよい思いに満ち、良い熱意と敬虔な信頼をもって、全能の神に手を差し伸べていました。心ならずも何かの罪を犯したなら、あわれんでくださるようにと願ったのです。2:4 昼も夜も、あなたがたは兄弟たちすべてのために苦闘していました。神に選ばれた者たちの数が、あわれみと真心とをもって救われるためです。2:5 あなたがたは純真で、偽りがなく、互いに恨みを抱きませんでした。2:6 どんな内紛も、どんな分裂も、あなたがたには忌まわしいものでした。あなたがたは、隣人の過ちを悲しみました。隣人の足りないところを、自分のことと考えました。2:7 あなたがたは、どんな善を行っても悔やむことがなく、あらゆる良いわざをする用意ができていました。2:8 あなたがたは、徳に満ちた尊い生き方で身を飾り、神を恐れて、すべてを行っていました。主の命令とおきては、あなたがたの心の碑に書き記されていました。

3:1 あらゆる栄光と豊かさが、あなたがたに与えられました。そして、書いてあることが実現しました。『愛された者は食べて飲み、豊かになって肥え太り、足でけった』（申命記三二・一五）。3:2 ここから、ねたみとそねみ、争いと内紛、迫害と混乱、戦いと捕らわれが起こりました。3:3 こうして、卑しい者たちが尊い者たちに逆らって立ち上がりました。誉れのない者が誉れある者に、愚かな者が賢い者に、若い者が年長の者に逆らったのです。3:4 そのため、義と平和は遠く離れています。それぞれが神を恐れることを捨て、神を信じる目がかすんでしまったからです。神の命令の定めのうちを歩まず、キリストにふさわしく生きることもしません。かえって、それぞれが自分の悪い心の欲に従って歩み、不正で

不敬なねたみを抱いています。このねたみによって、死もこの世に入ったのです。

4:1 こう書いてあるからです。『日がたって、カインは地の産物を持ってきて、神にささげ物とした。アベルもまた、羊のういごと、その肥えたものとを持ってきた。4:2 神はアベルとその供え物とを顧みられた。しかし、カインとそのささげ物とは顧みられなかった。4:3 カインはひどく悲しんで、顔を伏せた。4:4 神はカインに言われた。「なぜ、ひどく悲しんでいるのですか。なぜ、顔を伏せるのですか。正しくささげても、正しく分けないなら、罪を犯したのではありませんか。4:5 静まりなさい。彼はあなたのほうを向き、あなたは彼を治めるのです」。4:6 カインは弟アベルに「野原へ行こう」と言った。彼らが野原にいたとき、カインは弟アベルに立ちかかって、これを殺した』（創世記四・三〜八）。4:7 兄弟たちよ、ごらんなさい。ねたみとそねみが、兄弟殺しを引き起こしたのです。4:8 ねたみのために、わたしたちの父ヤコブは、兄エサウの前から逃げ去りました。4:9 ねたみが、ヨセフを死に至るほどの迫害に遭わせ、奴隷の身にまで落としました。4:10 ねたみが、モーセをエジプトの王パロの前から逃げざるをえなくしました。同胞からこう言われたときのことです。『だれがあなたを立てて、われわれの裁き人、あるいは裁判人としたのですか。きのうエジプトびとを殺したように、あなたはわたしを殺そうと思うのですか』（出エジプト二・一四）。4:11 ねたみのために、アロンとミリアムは宿営の外に泊まることになりました。4:12 ねたみが、ダタンとアビラムを生きたまま陰府に下らせました。神のしもべモーセに逆らって、内紛を起こしたからです。4:13 ねたみのために、ダビデは異邦の民からそねまれただけでなく、イスラエルの王サウルからも迫害されました。

5:1 しかし、昔の手本はこれくらいにして、ごく近い時代の競技者たちに目を向けましょう。わたしたちの世代の、気高い手本を取り上げましょう。5:2 ねたみとそねみのために、最も偉大で最も正しい柱であった人たちが迫害され、死に至るまで戦い抜きました。5:3 すぐれた使徒たちを、わたしたちの目の前に置きましょう。5:4 ペテロは、不正なねたみのために、一度や二度ではなく、何度も苦しみを耐え忍びました。こうしてあかしをして、受けるべき栄光の場所へと行ったのです。5:5 ねたみと争いのために、パウロは忍耐が受ける賞を、身をもって示しました。5:6 彼は七度も鎖につながれ、追放され、石で打たれました。東でも西でも宣べ伝える者となり、その信仰の気高い誉れを受けました。5:7 彼は全世界に義を教え、西の果てにまで行き、為政者たちの前であかしをしました。こうして彼はこの世を去り、聖なる場所へと上げられました。忍耐の、最も偉大な模範となったのです。

6:1 きよく生きたこれらの人たちに、選ばれた者たちの大群が加わりました。彼らはねたみのために、多くの辱めと責め苦に遭いました。そして、わたしたちのあいだで最もすぐれた手本となったのです。6:2 ねたみのために迫害された女たち、ダナオスの娘たちやディルケーたち[1]は、むごい、神をも恐れぬ辱めを受けました。それでも彼女たちは、信仰の確かな競走を終わりまで走り抜きました。体は弱くても、気高い賞を受けたのです。6:3 ねたみは、妻たちを夫から引き離し、わたしたちの父アダムの言ったことをゆがめてしまいました。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉』（創世記二・二三）。6:4 ねたみと争いは、大きな町々を滅ぼし、大きな国々を根こそぎにしました。

訳注

1 ギリシア神話の女たち。その役を演じさせた処刑か。本文の誤りとみる説もある。

7〜12章　悔い改めと従順の手本

7:1 愛する者たちよ。わたしたちがこれを書き送るのは、あなたがたを戒めるためだけではありません。わたしたち自身にも思い起こさせるためです。わたしたちは同じ競技場にいて、同じ戦いがわたしたちの前に置かれているのです。7:2 ですから、むなしく空疎な思い煩いを捨てましょう。そして、わたしたちに伝えられてきた、名高く尊い規範に向かいましょう。7:3 わたしたちを造られた方の前で、何が良く、何が楽しく、何が受け入れられることなのかを見ましょう。7:4 キリストの血を見つめ、それがその父にとってどれほど尊いものであるかを知りましょう。この血は、わたしたちの救いのために流され、全世界に悔い改めの恵みをもたらしたからです。7:5 すべての世代をたどって、次のことを学び取りましょう。主は代々、ご自分に立ち返ろうと願う者たちに、悔い改めの機会を与えてこられました。7:6 ノアは悔い改めを宣べ伝えました。そして、それに聞き従った人たちは救われました。7:7 ヨナは、ニネベの人々に滅びを宣べ伝えました。彼らは神とは縁のない者たちでした。それでも、自分たちの罪を悔い改め、嘆き願って神をなだめ、救いを受けたのです。

8:1 神の恵みに仕える者たちは、聖霊によって悔い改めについて語りました。8:2 万物の主ご自身も、誓いをもって悔い改めについて語られました。『主は言われる、わたしは生きている。わたしは罪人の死を喜ばない。むしろ、その悔い改めを喜ぶ』（エゼキエル三三・一一）。そして、恵み深いことばを付け加えて、こう言われました。8:3 『イスラエルの家よ、あなたがたの不法を離れて悔い改めよ。わたしの民の子らに言え。あなたがたの罪は、地から天にまで達しているかもしれない。緋よりも赤く、荒布よりも黒いかもしれない。それでも、心を尽くしてわたしに立ち返り、「父よ」と言うなら、わたしは聖なる民に対するように、あなたがたの願いを聞く』[1]。8:4 また別の箇所では、こう言われます。『身を洗って、清くなれ。わたしの目の前で、あなたがたの魂から悪を取り除け。悪を行うことをやめ、善を行うことをならえ。公平を求め、虐げられている者を救い、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ。主は言われる、さあ、われわれは互いに論じよう。たといあなたがたの罪が緋のようであっても、わたしは雪のように白くしよう。紅のようであっても、羊の毛のように白くしよう。もし、あなたがたが快くわたしに聞き従うなら、地の良き物を食べることができる。しかし、あなたがたが拒み、わたしに聞き従わないなら、つるぎで滅ぼされる。これは主がその口で語られたことである』（イザヤ一・一六〜二〇）。8:5 こうして主は、ご自分の愛する者たちがみな悔い改めにあずかることを望まれました。そして、全能のみこころによって、それを確かなものとされたのです。

9:1 ですから、主の大いなる栄光あるみこころに聞き従いましょう。主のあわれみと慈しみを嘆き求める者となって、御前にひれ伏しましょう。むだな骨折りも争いも、死に至らせるねたみも捨てて、主の深いあわれみに立ち返りましょう。9:2 主の大いなる栄光に、完全に仕えた人たちを見つめましょう。9:3 エノクを取り上げましょう。彼は従順によって正しい者と認められ、移されました。そして、彼の死は見当たりませんでした。9:4 ノアは忠実な者と認められ、その務めによって、世界の新生を宣べ伝えました。主は彼によって、心を一つにして箱舟に入った生き物たちを救われました。

10:1 「友」と呼ばれたアブラハムは、神のことばに従う者となったことで、忠実な者と認められました。10:2 彼は従順によって、自分の国と親族と父の家を出ました。わずかな土地と弱い親族と小さな家とを後にして、神の約束を受け継ぐためです。神は彼にこう言われたのです。10:3 『あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福された者となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される』（創世記一二・一〜三）。10:4 また、彼がロトと別れたときにも、神は彼に言われました。『目をあげ

て、今あなたのいる所から北、南、東、西を見わたしなさい。すべてあなたが見わたす地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。10:5わたしはあなたの子孫を地の砂のようにします。もし人が地の砂を数えることができるなら、あなたの子孫も数えられることができましょう』（創世記一三・一四～一六）。10:6また、こう言われています。『神はアブラハムを外に連れ出して、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい。あなたの子孫はあのようになるでしょう」と言われた。アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』（創世記一五・五～六）。10:7信仰ともてなしのゆえに、彼は年老いてから子を授かりました。そして従順によって、神が示された山で、その子を神へのいけにえとしてささげました。

11:1もてなしと敬虔のゆえに、ロトはソドムから救われました。そのとき、周りの地方はみな、火と硫黄によって裁かれました。こうして主は、次のことをはっきりと示されました。ご自分に望みを置く者たちを見捨てず、心をほかへ傾ける者たちを罰と責め苦に定められる、ということです。11:2彼の妻も一緒に出て行きましたが、考えを異にし、心を一つにしていませんでした。彼女はしるしとされ、今日に至るまで塩の柱となっています。二心の者や、神の力を疑う者が、裁きを受け、すべての世代への戒めのしるしとなることを、すべての人が知るためです。

12:1信仰ともてなしのゆえに、遊女ラハブは救われました。12:2ヌンの子ヨシュアが斥候たちをエリコに遣わしたとき、その地の王は、彼らが自分たちの国を探りに来たことを知りました。そこで王は、彼らを捕らえる者たちを遣わしました。捕らえて殺すためです。12:3そこで、もてなしの心のあるラハブは、彼らを迎え入れ、屋上の間の、亜麻の茎の下に隠しました。12:4王のもとから来た者たちが現れて、「この国を探る者たちが、おまえのところに入った。彼らを連れ出せ。王がそう命じておられる」と言いました。彼女は「お捜しの男たちは、確かにわたしのところに来ました。けれども、すぐに出て行って、あの道を進んでいます」と答えました。そして、使いの者たちに逆の方向を指し示したのです。12:5彼女はまた、男たちに言いました。「わたしはよく知っています。主なる神は、この地をあなたがたにお渡しになります。あなたがたへの恐れとおののきが、この地に住む者たちに襲いかかっているからです。ですから、あなたがたがこの地を取ることになったら、わたしとわたしの父の家を救ってください」。12:6彼らは彼女に、「あなたの言ったとおりにしよう。われわれが来るのを知ったら、あなたの身内をみな、あなたの屋根の下に集めなさい。そうすれば、彼らは救われる。家の外にいるのが見つかった者は、だれでも滅びるのだから」と言いました。12:7彼らはさらに、彼女にしるしを与えました。家から緋色のものをつり下げるように、というのです。こうして彼らは、主の血によって、神を信じ、神に望みを置くすべての人にあがないがあることを、はっきりと示したのです。12:8愛する者たちよ、ごらんなさい。この女には、信仰だけでなく、預言もあったのです。

訳注

1 この言葉は今の聖書にない。エゼキエル書の異本か外典からの引用とみられる。

13〜17章　へりくだりの手本

13:1 兄弟たちよ。ですから、へりくだりましょう。あらゆるおごりとうぬぼれ、愚かさと怒りを捨てて、書かれていることを行いましょう。聖霊がこう言われているのです。『知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。ただ、誇る者は主を誇れ。主を尋ね求め、公義と正義を行うためである』（エレミヤ九・二三〜二四、第一サムエル二・一〇）。とりわけ、主イエスのことばを心に留めましょう。主が寛容と辛抱強さを教えて語られたことばです。13:2 主はこう言われたのです。『あわれみをかけよ。あわれみを受けるためである。ゆるせ。ゆるされるためである。あなたがたがするように、あなたがたにもされる。与えるように、与えられる。さばくように、さばかれる。親切にするように、親切にされる。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられる』。13:3 この戒めとこれらの教えによって、自分を堅く立たせましょう。へりくだって、主の神聖なことばに聞き従って歩むためです。聖なることばは、こう言っているのです。13:4 『わたしはだれを顧みようか。柔和で静かで、わたしの言葉に恐れおののく者のほかに』（イザヤ六六・二）。

14:1 兄弟たちよ。ですから、正しくきよいことは、わたしたちが神に聞き従う者となることです。おごりと混乱のうちにある、忌まわしいねたみの首謀者たちに従うことではありません。14:2 わたしたちが向こう見ずにも人々の思いのままに身をゆだねるなら、並々ならぬ害を受けるからです。いや、大きな危険を身に招くことになります。その人々は争いと内紛へと突き進み、わたしたちを良いことから引き離そうとしているのです。14:3 わたしたちを造られた方の慈愛と優しさにならって、互いに親切にしましょう。14:4 こう書いてあるからです。『親切な者は地に住む者となり、悪のない者は地にとどまる。しかし、不法を行う者は地から断ち滅ぼされる』（箴言二・二一〜二二）。14:5 また、こう言われています。『わたしは悪しき者が勝ち誇って、レバノンの香柏のようにそびえたつのを見た。しかし、わたしが通り過ぎると、見よ、彼はいなかった。わたしはその場所を尋ねたけれども、見つからなかった。悪のない心を守り、まっすぐなことを見よ。平和な人には残るものがあるからである』（詩篇三七・三五〜三七）。

15:1 ですから、敬虔をもって平和を保つ人たちに結びつきましょう。偽善をもって平和を望む人たちにではありません。15:2 ある箇所で、こう言われるのです。『この民は、くちびるではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている』（イザヤ二九・一三）。15:3 また、こうもあります。『彼らはその口では祝福し、心のうちではのろうのである』（詩篇六二・四）。15:4 また、こう言われています。『彼らはその口で神を愛し、その舌で神に偽りを言った。彼らの心は神にむかって堅実でなく、神の契約に真実でなかった』（詩篇七八・三六〜三七）。15:5 ですから、『正しい者に逆らって不法を語る偽りのくちびるを、つぐませてください』（詩篇三一・一八）。また、『主がすべての偽りのくちびると、大きな事を語る舌とを断たれるように。彼らは言った、「わたしたちは舌を大いにふるおう。わたしたちのくちびるはわたしたちのものだ。だれがわたしたちの主人であるか」と。15:6 主は言われる、「貧しい者の苦しみと、乏しい者の嘆きのゆえに、わたしはいま立ちあがって、彼を救いの中に置こう。15:7 彼について大胆に語ろう」』（詩篇一二・三〜五）。

16:1 キリストは、へりくだる人たちのものだからです。ご自分の群れに対して高ぶる人たちのものではありません。16:2 神の威光の笏である主イエス・キリストは、おごりや高慢の虚勢を張って来られたのではありません。そうすることもおできになったのに、へりくだって来られました。聖霊がこの方について語られたとおりです。聖霊はこう言われているのです。16:3 『主よ、われわれの聞いたことを、だれが信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。われわれは彼の前に告げ知らせた。彼は幼子のよう、かわいた地の根のようだ。彼には見るべき姿もなく、栄光もない。われわれは彼を見たが、彼には姿も美しさもなかった。そ

の姿は卑しく、人の姿に劣っていた。彼は打たれ、労苦する人で、弱さを負うすべを知っていた。その顔が背けられたので、彼は侮られ、尊ばれなかった。16:4 彼はわれわれの罪を負い、われわれのために苦しむ。しかるに、われわれは思った、彼は労苦し、打たれ、苦しめられているのだと。16:5 しかし彼はわれわれの罪のゆえに傷つけられ、われわれの不法のゆえに弱らされた。われわれの平安のための懲らしめが彼の上にあり、その打たれた傷によって、われわれはいやされた。16:6 われわれはみな羊のように迷い、人はおのおの自分の道に迷った。16:7 主はわれわれの罪のために彼を引き渡された。彼は苦しめられたゆえに、口を開かない。ほふり場にひかれて行く羊のように、また毛を切る者の前に黙っている小羊のように、彼は口を開かない。へりくだりのうちに、彼のさばきは取り去られた。16:8 だれが、彼の子孫のことを語ることができようか。彼のいのちは地から取り去られるからである。16:9 わが民の不法のゆえに、彼は死に至った。16:10 わたしは悪人たちを彼の葬りの代わりに、富む者たちを彼の死の代わりに与える。彼は不法を行わず、その口に偽りは見いだされなかったからである。主は彼を打ち傷から清くしようと望まれる。16:11 あなたがたが罪のためのささげ物をするなら、あなたがたの魂は、長く生きる子孫を見る。16:12 主は、彼の魂の苦しみを軽くし、彼に光を示し、悟りによって形づくることを望まれる。多くの人によく仕える正しい者を、義とすることを望まれる。彼は彼らの罪を負う。16:13 それゆえ、彼は多くの人を受け継ぎ、強い者の獲物を分かち取る。彼の魂が死に渡され、不法な者たちと共に数えられたからである。16:14 彼は多くの人の罪を負い、彼らの罪のゆえに引き渡された』（イザヤ五三・一〜一二）。16:15 また、この方ご自身が、こう言われます。『しかし、わたしは虫であって、人ではない。人にそしられ、民に侮られる。16:16 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、くちびるで語り、かしらを振り動かして言う、「彼は主に望みを置いた。主に彼を助けさせよ。主は彼を望まれるのだから、主に彼を救わせよ」と』（詩篇二二・六〜八）。16:17 愛する者たちよ、ごらんなさい。わたしたちに与えられた模範が、どのようなものかを。主がこれほどへりくだられたのなら、この方によってその恵みのくびきの下に来たわたしたちは、何をすべきでしょうか。

17:1 わたしたちは、あの人たちにもならう者となりましょう。彼らはやぎの皮や羊の皮を着て歩きまわり、キリストが来られることを宣べ伝えました。わたしたちが言っているのは、エリヤとエリシャ、さらにエゼキエルという預言者たちのことです。それに加えて、聖書にあかしされている人たちのことも言っているのです。17:2 アブラハムは大いにあかしされ、「神の友」と呼ばれました。その彼が、神の栄光を見つめながら、へりくだって、こう言います。『わたしはちり灰に過ぎません』（創世記一八・二七）。17:3 さらに、ヨブについては、こう書いてあります。『ヨブは正しく、責められるところがなく、真実で、神を敬い、すべての悪から遠ざかっていた』（ヨブ一・一）。17:4 しかし、その彼も自分を責めて、こう言います。『汚れから清い者は、ひとりもいない。たとえ、そのいのちが一日だけであっても』（ヨブ一四・四〜五）。17:5 モーセは、神の全家に忠実な者と呼ばれました。神は彼の奉仕によって、エジプトを、その災いと責め苦によって裁かれました。しかし、これほど大いに栄光を受けたこの人も、大きな事を語りませんでした。柴の中からお告げが与えられたとき、こう言ったのです。『わたしは、いったい何者でしょう。あなたがわたしを遣わされるとは。わたしは口も重く、舌も重いのです』（出エジプト三・一一、四・一〇）。17:6 また、こう言います。『わたしは釜から立つ湯気に過ぎません』[1]。

訳注

1 この言葉は今の聖書にない。出どころの分からない外典からの引用とみられる。

18〜21章　ダビデのへりくだりと、造られた世界の平和

18:1 では、聖書にあかしされたダビデについては、何と言いましょうか。神は彼について、こう言われました。『わたしは、わたしの心にかなう人、エッサイの子ダビデを見つけた。永遠のあわれみをもって、わたしは彼に油を注いだ』（詩篇八九・二〇、使徒一三・二二）。18:2 しかし、その彼自身も、神にこう言います。『神よ、あなたの大いなるあわれみによって、わたしをあわれんでください。あなたの豊かな深いあわれみによって、わたしのとがをぬぐい去ってください。18:3 もっともっと、わたしの不法からわたしを洗い、わたしの罪からわたしを清めてください。わたしは自分の不法を知っており、わたしの罪はいつもわたしの前にあるからです。18:4 わたしはただあなたに罪を犯し、あなたの前に悪い事を行いました。それは、あなたが言葉を述べるときに義とされ、さばきを受けるときに勝利を得るためです。18:5 見よ、わたしは不法のうちに宿され、わたしの母は罪のうちにわたしをみごもったのです。18:6 見よ、あなたは真実を愛されたのです。あなたの知恵の、明らかでないことと隠れたことを、あなたはわたしに示されました。18:7 あなたはヒソプでわたしに振りかけてくださり、わたしは清くなるでしょう。あなたはわたしを洗ってくださり、わたしは雪よりも白くなるでしょう。18:8 あなたはわたしに喜びと楽しみを聞かせてくださり、低くされた骨は喜び躍るでしょう。18:9 御顔をわたしの罪から隠し、わたしの不法をことごとくぬぐい去ってください。18:10 神よ、わたしのうちに清い心をつくり、わたしの奥深くに、正しい霊を新たにしてください。18:11 わたしを御前から捨てないでください。あなたの聖なる霊をわたしから取らないでください。18:12 あなたの救いの喜びをわたしに返し、導く霊をもって、わたしをささえてください。18:13 わたしは不法な者たちにあなたの道を教え、神を敬わない者たちはあなたに帰ってくるでしょう。18:14 神よ、わが救いの神よ、血を流した罪からわたしを助け出してください。18:15 わたしの舌は声高らかにあなたの義を歌うでしょう。主よ、あなたはわたしの口を開いてくださり、わたしのくちびるはあなたの誉れをあらわすでしょう。18:16 もしあなたがいけにえを望まれたのなら、わたしはささげたはずだからです。燔祭を、あなたは喜ばれないでしょう。18:17 神の受けられるいけにえは砕けた霊です。砕かれ、低くされた心を、神はかろしめられないでしょう』（詩篇五一・一〜一七）。

19:1 ですから、これほど多くの、これほど優れた人たちが、このように聖書にあかしされています。その人たちのへりくだりと身を低くする心は、従順によって人をよりよい者にしました。わたしたちだけでなく、わたしたちより前の世代、神のことばを恐れと真実のうちに受け入れた人たちもです。19:2 ですから、わたしたちは多くの偉大で栄光ある行いを受け継いでいます。初めからわたしたちに伝えられてきた平和の目標へと、走って立ち返りましょう。全世界の父であり造り主である方を見つめましょう。そして、その方の大いなる、比べようもない平和の賜物と恵みとに、しっかりと結びつきましょう。19:3 思いの中でその方を見ましょう。魂の目で、その方の辛抱強いみこころに目を注ぎましょう。その方が、造られたすべてのものに対して、どれほど怒ることのない方であるかを悟りましょう。

20:1 天は、その方に治められて巡りながら、平和のうちにその方に従っています。20:2 昼と夜は、その方が定められた道のりを、互いに少しも妨げることなく走り終えます。20:3 太陽も月も、星々の舞う群れも、その方の指図に従って、心を一つにしています。少しもそれることなく、自分たちに命じられた軌道を巡っています。20:4 地は、その方のみこころに従ってみごもり、それぞれの季節に、あふれるほどの食物を生じさせます。人にも獣にも、地の上にいるすべての生き物にもです。地は和を乱すことも、その方が定められたことを何一つ変えることもありません。20:5 深淵の窮めがたい領域も、陰府の言い表せない領域も、同じ命令によって保たれています。20:6 果てしない海のくぼみは、その方の創造によって、水の集まる所に集められました。海は、その周りに置かれたかんぬきを

越えることなく、その方が命じられたとおりにしています。20:7 その方が、こう言われたからです。『ここまで来てもよい。おまえの波は、おまえの中で砕ける』（ヨブ三八・一一）。20:8 人にとって果てしない大洋も、そのかなたの世界も、主の同じ指図によって治められています。20:9 春と夏と秋と冬の季節は、平和のうちに、次々と互いにあとを引き継いでいきます。20:10 風の持ち場も、それぞれの時に応じて、滞りなくその務めを果たします。絶えず流れる泉は、楽しみと健康のために造られ、欠けることなく、人のいのちのために乳房を差し出しています。ごく小さな生き物たちも、一致と平和のうちに集い合います。20:11 偉大な創造者であり万物の主である方は、これらすべてが平和と一致のうちにあるように命じられました。この方は、すべてのものに恵みを施されます。中でも、その深いあわれみのもとに逃れてきたわたしたちには、あふれるほどの恵みを施されます。わたしたちの主イエス・キリストによってです。20:12 この方に、栄光と威光が世々限りなくありますように。アーメン。

21:1 愛する者たちよ、気をつけなさい。神の多くの恵みが、わたしたちにとって裁きとならないように。わたしたちが神にふさわしく歩まず、御前に良いこと、喜ばれることを心を一つにして行わないなら、そうなってしまいます。21:2 ある箇所で、こう言われているのです。『主の霊はともしびであり、心の奥を探る』（箴言二〇・二七）。21:3 神がどれほど近くにおられるかを見ましょう。そして、わたしたちの思いも、わたしたちのめぐらす考えも、何一つ神に隠れていないことを見ましょう。21:4 ですから、わたしたちが神のみこころから離れて持ち場を捨てないことが、正しいのです。21:5 神を怒らせるよりも、むしろ、愚かで無分別な人たち、口先のおごりのうちに高ぶり誇る人たちを怒らせましょう。21:6 主イエス・キリストを畏れ敬いましょう。その血はわたしたちのために与えられたのです。わたしたちの指導者たちを敬い、年長の者たちを尊びましょう。若い者たちを、神を恐れることの教えで育てましょう。わたしたちの妻たちを、善いことへと正しく導きましょう。21:7 妻たちが、清さの愛すべき品性を示し、柔和の純真な志を表すようにしましょう。沈黙によって、舌の穏やかさを明らかにするようにしましょう。その愛を、えこひいきによってではなく、神を恐れるすべての人に、きよく、分け隔てなく示すようにしましょう。21:8 わたしたちの子供たちが、キリストにある教えにあずかるようにしましょう。神の前でへりくだりがどれほど力を持つか、清い愛が神の前で何をなしうるかを学ぶようにしましょう。また、神を恐れることがどれほど麗しく偉大であるかを学ぶようにしましょう。神を恐れることは、その中で清い思いをもってきよく歩むすべての人を救うのです。21:9 神は、思いと志とを探る方だからです。神の息はわたしたちのうちにあり、神は望まれるときに、それを取り去られます。

22〜29章　復活の望みと、神の選び

22:1 キリストにある信仰が、これらすべてを確かなものとします。キリストご自身も、聖霊によって、わたしたちにこう呼びかけておられるのです。『子らよ、来てわたしに聞け。わたしは主を恐るべきことをあなたがたに教えよう。22:2 いのちを慕い、さいわいな日々を見ることを好む人はだれか。22:3 あなたの舌をおさえて悪を言わせず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わすな。22:4 悪を離れて善をおこなえ。22:5 平和を求めて、これを追い求めよ。22:6 主の目は正しい人をかえりみ、その耳は彼らの願いに傾く。主の御顔は悪を行う者にむかい、その記憶を地から断ち滅ぼされる。22:7 正しい者が叫ぶと、主は聞いて、彼をそのすべての悩みから助け出された。22:8 罪人には鞭が多い。しかし、主に望みを置く者たちは、あわれみで囲まれる』（詩篇三四・一一〜一七、三二・一〇）。

23:1 すべてにおいてあわれみ深く、善を施される父は、ご自分を恐れる者たちに、いつくしみの心を向けておられます。そして、ひたすらな思いで近づく者たちに、優しく、穏やかに、その恵みを与えてくださいます。23:2 ですから、二心を抱かないようにしましょう。神の比べようもない、栄光ある賜物について、わたしたちの魂が思い迷うことのないようにしましょう。23:3 次のように言う聖書の言葉が、わたしたちから遠く離れているようにしましょう。『二心の者たち、魂の中で疑う者たちはみじめだ。彼らは言う。「わたしたちは、これらのことを父祖の時代にも聞いた。それなのに見よ、わたしたちは年老いたが、そのどれ一つとして、わたしたちに起こらなかった」。23:4 愚かな者たちよ、自分を木と比べてみよ。ぶどうの木を取り上げてみよ。まず葉を落とし、次に芽が出て、次に葉、次に花、その後に青い実、そして実ったぶどうの房となる』1。ごらんなさい。わずかな時のうちに、木の実は熟するのです。23:5 まことに、神のみこころは速やかに、たちまち成し遂げられます。聖書もまた、こうあかししています。『速やかに来て、遅れることはない。主は、たちまちその宮に来る。あなたがたの待ち望む聖なる方も来る』（イザヤ一三・二二、マラキ三・一）。

24:1 愛する者たちよ、よく考えてみましょう。主は、やがて復活があることを、どのように絶えずわたしたちに示しておられるでしょうか。主イエス・キリストを死人の中からよみがえらせて、その復活の初穂とされたのです。24:2 愛する者たちよ、時に応じて起こる復活を見ましょう。24:3 昼と夜は、わたしたちに復活を明らかにしています。夜は眠り、昼は起き上がります。昼が去ると、夜が来ます。24:4 実りを取り上げましょう。種まきは、どのようにして、どんな仕方で行われるでしょうか。24:5 種をまく者が出て行き、種を一つずつ地に投げます。種は乾いた裸のままで地に落ち、朽ちていきます。それから、主の摂理の偉大さが、朽ちたところから種をよみがえらせます。そして一つの種から多くのものが育ち、実を結ぶのです。

25:1 東の地方、つまりアラビアのあたりで起こる、不思議なしるしを見ましょう。25:2 不死鳥と呼ばれる鳥がいるのです。この鳥はただ一羽しかおらず、五百年生きます。いよいよ死んで世を去る時が近づくと、乳香と没薬とそのほかの香料で、自分のためにひつぎを作ります。そして時が満ちると、その中に入って死にます。25:3 その肉が腐ると、一匹の虫が生まれます。虫は、死んだ鳥の体液で養われて育ち、翼が生えます。やがて力強くなると、先の鳥の骨が納められたあのひつぎを持ち上げます。その骨を担って、アラビアの地からエジプトへ、ヘリオポリスと呼ばれる町まで渡っていきます。25:4 そして昼間、皆が見ている前で、太陽の祭壇に飛んで降り、骨をそこに置きます。こうして、もと来た所へ帰っていきます。25:5 そこで祭司たちは年代の記録を調べます。そして、その鳥がちょうど五百年目が満ちたときに来たことを見いだすのです。

26:1 それなら、万物の創造者がご自分にきよく仕えた人たちを復活させられることを、大いに驚くべきことと思うでしょうか。その人たちは、良い信仰の確信

をもって仕えたのです。この方は、鳥によってさえ、ご自分の約束の偉大さをわたしたちに示しておられるのですから。26:2ある箇所で、こう言われているのです。『あなたはわたしを起こし、わたしはあなたをほめたたえる』。また、『わたしは伏して眠り、起き上がった。あなたがわたしと共におられるからだ』（詩篇三・五、二三・四）。26:3また、ヨブもこう言います。『あなたは、これらすべてを耐え抜いたこのわたしの肉を、よみがえらせてくださる』（ヨブ一九・二六）。

27:1ですから、この望みによって、わたしたちの魂が、約束に忠実で裁きに正しい方に結びつけられているようにしましょう。27:2偽ってはならないと命じられた方は、なおさらご自身が偽ることはありません。神にとって、偽ること以外にできないことは何もないからです。27:3ですから、神への信仰が、わたしたちのうちに再び燃え立つようにしましょう。そして、すべてのものが神の近くにあることを悟りましょう。27:4神は、その威光のことばによって万物を組み立てられました。そして、ことばによって、それを覆すこともおできになります。27:5だれが神に『あなたは何をしたのか』と言えるでしょうか。あるいは、だれが神の力の強さに逆らえるでしょうか。神は、望まれるときに、望まれるとおりに、すべてを行われます。神が定められたことは、何一つ過ぎ去ることがありません。27:6すべてのものは神の前にあり、何一つ神のはかりごとから隠れてはいません。27:7『もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空は御手のわざをしめす。この日は言葉をかの日につたえ、この夜は知識をかの夜につげる。その声の聞こえない言葉も話もない』のですから。

28:1このように、すべてのことが神に見られ、聞かれています。ですから、神を恐れましょう。悪い行いの汚れた欲望を捨てましょう。それは、神のあわれみによって、来たるべき裁きから守られるためです。28:2わたしたちのうちのだれかが、神の力強い御手から逃れようとしても、どこへ行けるというのでしょうか。神のもとから脱走する者を、どんな世界が迎え入れるでしょうか。28:3書物のある箇所で、こう言われているのです。『わたしはどこへ立ち去り、どこに隠れて、あなたの御顔を避けましょうか。わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。地の果てに去っても、そこにあなたの右の御手があります。深淵に床を設けても、そこにあなたの御霊があります』（詩篇一三九・七〜一〇）。28:4それでは、万物を包み込んでおられる方から、人はどこへ去ることができるでしょうか。あるいは、どこへ逃げ去ることができるでしょうか。

29:1ですから、魂のきよさのうちに神に近づきましょう。清く汚れのない手を神に向かって上げ、寛容でいつくしみ深いわたしたちの父を愛しながら、近づくのです。この父は、わたしたちを選びによってご自分の分とされたのです。29:2こう書いてあるのです。『いと高き者が諸国民を分け、アダムの子らを散らされたとき、神の使いたちの数に従って、もろもろの民の境を定められた。その民ヤコブは主の分となり、イスラエルはその定められた嗣業となった』（申命記三二・八〜九）。29:3また、別の箇所では、こう言われています。『見よ、主は、人が自分の打ち場から初物を取るように、諸国民の中から一つの国民をご自分のために取る。その国民から、最も聖なるものが出る』[2]。

訳注

1 この言葉は今の聖書にない。失われた外典からの引用とみられる。
2 このままの形では聖書にない。数か所を合わせたか、失われた書から引いたらしい。

30〜35章　祝福の道と、信仰による義

30:1 わたしたちは聖なる方の分なのです。ですから、きよめにかかわることをすべて行いましょう。悪口を避けて、そうするのです。汚れた、不潔な抱擁、酒に酔うこと、騒乱、忌まわしい欲望を避けるのです。汚らわしい姦淫と、忌まわしい高慢も避けるのです。30:2 こう言われているのです。『神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う』（箴言三・三四）。30:3 ですから、神から恵みを与えられている人たちに、堅く結びつきましょう。一致を身にまといましょう。へりくだり、自制し、あらゆる陰口と悪口から自分を遠ざけて、そうするのです。言葉によってではなく、行いによって義とされるのです。30:4 こう言われているのです。『多くを語る者は、言い返されもする。あるいは、口の達者な者は、自分を正しいと思うのか。30:5 女から生まれた、いのちの短い者は祝福されている。言葉の多い者となってはならない』（ヨブ一一・二〜三）。30:6 わたしたちの誉れは、神のうちにあるようにしましょう。自分たちから出るものでないようにしましょう。自分をほめる者を、神は憎まれるからです。30:7 わたしたちの良い行いのあかしは、ほかの人たちから与えられるようにしましょう。わたしたちの父祖である正しい人たちにも、そのように与えられたのです。30:8 厚かましさ、身勝手、無謀は、神にのろわれた者たちのものです。寛容、へりくだり、柔和は、神に祝福された者たちのもとにあります。

31:1 ですから、神の祝福に堅く結びつきましょう。そして、祝福の道とはどのようなものかを見ましょう。初めから起こったことを、ひもといてみましょう。31:2 わたしたちの父アブラハムは、何のゆえに祝福されたのでしょうか。信仰によって、義と真実を行ったからではありませんか。31:3 イサクは、これから起こることを確信をもって知り、喜んでいけにえとしてささげられようとしました。31:4 ヤコブは、兄弟のゆえに、へりくだって自分の土地を離れました。ラバンのもとに行って仕えました。そして、イスラエルの十二の部族が彼に与えられたのです。

32:1 これらのことを一つ一つ、まっすぐな心でよく考える人はだれでも、神によって与えられた賜物の偉大さを知るでしょう。32:2 ヤコブから、神の祭壇に仕える祭司たちとレビ人たちが、みな出たのです。肉によれば、主イエスも彼から出られました。ユダの家系として、王たち、支配者たち、為政者たちも彼から出ました。彼のほかの部族も、少なからぬ栄光のうちにあります。神が『あなたの子孫は天の星のようになる』と約束されたとおりです（創世記一五・五）。32:3 ですから、彼らはみな栄光を受け、大いなる者とされました。それは、自分自身によってでも、自分の行いや、自分の成し遂げた正しいわざによってでもありません。神のみこころによってです。32:4 ですから、わたしたちも同じです。神のみこころによって、キリスト・イエスにあって召されたわたしたちは、自分自身によって義とされるのではありません。自分の知恵や英知や敬虔によってでも、心のきよさのうちに成し遂げた行いによってでもありません。信仰によって義とされるのです。この信仰によって、全能の神は、世の初めからのすべての人を義とされました。この方に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

33:1 それでは、兄弟たちよ、わたしたちはどうしましょうか。善を行うことを怠り、愛を捨て去りましょうか。少なくともわたしたちについては、主がそんなことを決してお許しになりませんように。むしろ、あらゆる良いわざを成し遂げようと、ひたむきに、熱意をもって急ぎましょう。33:2 万物の創造者であり主である方ご自身が、ご自分のわざを大いに喜んでおられるのです。33:3 実際、この方は、この上なく大いなる力によって天を堅く据え、計り知れない英知によって天を整えられました。地を、それを取り巻く水から分け、ご自分のみこころという揺るがない土台の上に据えられました。地の上を行き交う生き物たちにも、ご自分の指図によって存在するように命じられました。海とその中の生き物たちをあらかじめ備えて、ご自分の力で閉じ込められました。33:4 そして、すべてのものの最後に、人を形づくられました。最も優れ、知性においてきわめて大いなる

者である人を、聖なる、傷のない御手で形づくられたのです。ご自分のかたちを刻んだ姿としてです。33:5 神は、こう言われるのです。『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造ろう』。また、『神は人を造り、男と女とに造られた』（創世記一・二六～二七）。33:6 こうして、これらすべてを完成すると、神はそれらをほめ、祝福して言われました。『生めよ、ふえよ』（創世記一・二八）。33:7 正しい人たちがみな、良いわざで飾られたことを見ましょう。主ご自身も、良いわざでご自分を飾り、喜ばれたのです。33:8 わたしたちには、この模範があります。ですから、ためらわずに、神のみこころのもとへ進み出ましょう。力を尽くして、義のわざを行いましょう。

34:1 良い働き人は、自分の働きに対するパンを、大胆に受け取ります。のろく、だらけた者は、雇い主の顔をまともに見られません。34:2 ですから、わたしたちは、善を行うことに熱心でなければなりません。すべてのものは、神から出ているからです。34:3 わたしたちに、前もってこう告げられているのです。『見よ、主が来られる。その報いはそのみ前にあり、おのおのにそのわざに応じて報いる』（イザヤ四〇・一〇、黙示録二二・一二）。34:4 ですから、心を尽くして神を信じるわたしたちに、神は勧めておられます。どんな良いわざにも、怠けず、だらけることがないように、と。34:5 わたしたちの誇りと大胆さは、神のうちにあるようにしましょう。神のみこころに従いましょう。神の御使いたちの群れ全体が、そばに立って、どのように神のみこころに仕えているかを、よく考えてみましょう。34:6 聖書が、こう言っているのです。『万々が彼のそばに立ち、千々が彼に仕えた。そして叫んだ。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全被造物に満つ」』（ダニエル七・一〇、イザヤ六・三）。34:7 ですから、わたしたちも、心を一つにし、良心においても一つ所に集まって、口をそろえて、ひたむきに神に叫び求めましょう。神の偉大で栄光ある約束に、あずかる者となるためです。34:8 こう言われているのです。『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、主は、ご自分を待ち望む者たちのために備えられた』（イザヤ六四・四、第一コリント二・九）。

35:1 愛する者たちよ、神の賜物は、なんと幸いで、驚くべきものでしょう。35:2 不死のうちにあるいのち、義のうちにある輝き、大胆さのうちにある真実、確信のうちにある信仰、きよめのうちにある自制。これらはみな、わたしたちの思いの及ぶものでした。35:3 それでは、待ち望む者たちのために備えられているものは、いったい何でしょうか。世々の創造者であり父である、いと聖なる方ご自身が、その大きさと美しさを知っておられます。35:4 ですから、わたしたちは、待ち望む者たちの数のうちに見いだされるように、懸命に努めましょう。約束された賜物にあずかるためです。35:5 愛する者たちよ、では、どうすればそうなるのでしょうか。それは、わたしたちの思いが、神に向かって忠実に、堅く据えられているときです。神に喜ばれ、受け入れられることを、わたしたちが求めるときです。神の非の打ちどころのないみこころにかなうことを成し遂げ、真理の道に従うときです。あらゆる不正と悪、貪欲、争い、悪意と欺き、陰口と悪口を、自分から投げ捨てて、そうするのです。神を憎むこと、高慢とおごり、虚栄、もてなしをしないことも投げ捨てるのです。35:6 これらを行う者たちは、神に忌み嫌われるからです。それを行う者たちだけではありません。それを是認する者たちも同じです。35:7 聖書が、こう言っているのです。『しかし神は罪人に言われた、「あなたはなぜ、わたしのおきてを述べ、わたしの契約を口にするのか。35:8 あなたは教を憎み、わたしの言葉を捨て去った。あなたは盗びとを見れば、これと共に走り、姦淫を行う者たちと分け前を共にした。あなたの口は悪を増し加え、あなたの舌はたばかりを仕組んだ。あなたは座してその兄弟をそしり、自分の母の子につまずきを置いた。35:9 あなたはこれらの事をしたが、わたしは黙っていた。不法な者よ、あなたは、わたしがあなたと同じような者になると思った。35:10 わたしはあなたを責め、あなた自身をあなたの目の前に立たせる。35:11 神を忘れる者よ、このことを思え。さもないと、彼は獅子のように奪い去る。そのときだれも助ける者はないであろう。35:12 賛美のいけにえは、わたしをあがめる。そこに道があり、その道で、わたしは彼に神の救いを示す」』（詩篇五〇・一六～二三）。

36〜42章　大祭司キリストと、神の定めた秩序

36:1 愛する者たちよ、これがその道です。この道で、わたしたちは自分の救いを見いだしました。それは、イエス・キリストです。この方は、わたしたちのささげ物の大祭司であり、弱いわたしたちの保護者、また助け手です。36:2 この方によって、わたしたちは天の高みを見つめています。この方によって、わたしたちは、神の傷のない、この上なく高い御顔を、鏡に映すように見ています。この方によって、わたしたちの心の目は開かれました。この方によって、わたしたちの悟りのない、暗くなった思いは、光に向かってふたたび芽生えます。この方によって、主は、わたしたちに不死の知識を味わわせようと望まれました。この方は、主の威光の輝きです。受け継がれた名が御使いたちの名よりすぐれているだけ、それだけ御使いたちにまさっておられるのです。36:3 こう書いてあるのです。『神は、御使たちを風とし、ご自分に仕える者たちを火の炎とされる』（詩篇一〇四・四）。36:4 しかし、ご自分の御子については、主はこう言われました。『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ。わたしに求めよ。わたしはもろもろの国を嗣業としてあなたに与え、地のはてまでもあなたの所有として与える』（詩篇二・七〜八）。36:5 また、御子に向かって、こう言われます。『わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ』（詩篇一一〇・一）。36:6 では、その敵とはだれでしょうか。よこしまな者たち、神のみこころに逆らう者たちです。

37:1 ですから、兄弟たちよ、神の非の打ちどころのない命令のうちで、どこまでもひたむきに、兵士として戦いましょう。37:2 わたしたちの為政者たちのもとで戦う兵士たちを、よく考えてみましょう。彼らは、命じられたことを、なんと秩序正しく、なんと手慣れて、なんとよく服従して果たしていることでしょう。37:3 みなが長官であるのではありません。みなが千人の長、百人の長、五十人の長であるのでも、そのほかの位にあるのでもありません。そうではなく、それぞれが自分の位にあって、王と為政者たちから命じられたことを果たしているのです。37:4 大きな者は小さな者なしにはありえず、小さな者も大きな者なしにはありえません。すべてのもののうちには、ある組み合わせがあります。そして、そこにこそ有用さがあるのです。37:5 わたしたちのからだを取り上げましょう。頭は足がなければ何ものでもありません。同じように、足も頭がなければ何ものでもありません。また、わたしたちのからだの最も小さな肢体も、からだ全体にとって必要であり、有用です。むしろ、すべての肢体が息を合わせ、一つになって従い、からだ全体が守られるようにしているのです。

38:1 ですから、わたしたちのからだ全体が、キリスト・イエスにあって守られるようにしましょう。おのおのが、その賜物をもって置かれたとおりに、隣人に従うようにしましょう。38:2 強い者は弱い者をいたわり、弱い者は強い者を敬うようにしましょう。富む者は貧しい者に施し、貧しい者は神に感謝するようにしましょう。神が彼に、その乏しさを満たしてくれる人を与えてくださったからです。知恵ある者は、その知恵を、言葉ではなく良いわざによって示すようにしましょう。へりくだる者は、自分で自分をあかしせず、ほかの人からあかしされるに任せるようにしましょう。肉において清い者は、自制を与えてくださるのはほかの方だと知って、誇らないようにしましょう。38:3 ですから、兄弟たちよ、思い巡らしましょう。わたしたちは、どんな素材から生じたのでしょうか。どのような者として、また何者として、この世界に入ってきたのでしょうか。わたしたちを形づくり、創造された方は、どんな墓と暗やみから、わたしたちをご自分の世界に導き入れてくださったのでしょうか。この方は、わたしたちが生まれる前に、ご自分の恵みを備えてくださったのです。38:4 わたしたちは、これらすべてを神からいただいているのです。ですから、あらゆることについて、神に感謝しなければなりません。この方に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

39:1 愚かな者、悟りのない者、無知な者、教えを受けない者たちが、わたしたちをあざけり、鼻であしらっています。自分の思いの中で、自分を高くしようとしているのです。39:2 死ぬべき者に、いったい何ができるというのでしょうか。あるいは、地から生まれた者に、どんな力があるというのでしょうか。39:3 こう書いてあるのです。『わたしの目の前に、かたちはなかった。わたしはただ、そよ風と声を聞いた。39:4 いったい、死ぬべき人が、主の前に清くありえようか。あるいは、人がその行いによって、責められるところのない者でありえようか。彼は、そのしもべたちをさえ頼みとせず、その天使たちに何か曲がったことを認められるのに。39:5 天も、彼の前に清くない。まして、泥の家に住む者たちは、なおさらである。わたしたち自身も、その同じ泥からできている。彼は彼らを、しみのように打った。朝から夕までの間に、彼らはもういない。自分で自分を助けることができずに、滅びうせた。39:6 彼が息を吹きかけると、彼らは死んだ。知恵がなかったからである。39:7 試みに呼んでみよ、だれかあなたに答える者があるか。あるいは、聖なる天使のだれかを、あなたは見るだろうか。確かに、憤りは愚かな者を殺し、ねたみは迷い出た者を死なせる。39:8 わたしは愚かな者たちが根を張るのを見た。しかし、たちまち、彼らの住まいは食い尽くされた。39:9 彼らの子らは、救いから遠ざかれ。自分より劣る者たちの戸口で、あざけられよ。彼らを救い出す者はない。彼らのために備えられたものは、正しい者たちが食べるのである。彼ら自身は、災いから救い出されない』（ヨブ四・一六～一八、一五・一五、四・一九～五・五）。

40:1 これらのことは、わたしたちにはっきりと示されているのです。わたしたちは、神の知識の深みをのぞき込んできたのです。ですから、主が定められた時に行うように命じられたことを、すべて秩序に従って行わなければなりません。40:2 主は、ささげ物と務めを行うように命じられました。それも、でたらめに、あるいは無秩序にではなく、決められた時と時刻に行うように命じられたのです。40:3 また、それをどこで、だれによって行うことを望まれるかも、決められました。主ご自身が、ご自分のこの上なく高いみこころによって決められたのです。すべてがきよく、主に喜ばれるうちに行われて、主のみこころに受け入れられるものとなるためです。40:4 ですから、命じられた時に自分のささげ物をする者たちは、受け入れられ、幸いです。主の定めに従っているので、過つことがないからです。40:5 実際、大祭司には、その人に固有の務めが与えられています。祭司たちには、固有の持ち場が命じられています。レビ人たちには、固有の奉仕が課せられています。一般の民は、一般の民のための命令に縛られています。

41:1 兄弟たちよ、わたしたちはおのおの、自分の位にあって、神に喜ばれるようにしましょう。良い良心を保ち、自分の務めに定められた規範を踏み越えずに、品位をもってそうするのです。41:2 兄弟たちよ、常供のいけにえも、誓願のいけにえも、罪ととがのためのいけにえも、どこででもささげられるのではありません。エルサレムでだけささげられます。しかも、そこでも、どの場所ででもささげられるのではありません。聖所の前の、祭壇のところでささげられます。ささげられる物は、大祭司と、先に述べた仕える者たちによって、前もって傷がないか調べられるのです。41:3 ですから、神のみこころにふさわしいことに背いて何かを行う者たちは、死を罰として受けるのです。41:4 兄弟たちよ、ごらんなさい。わたしたちは、多くの知識にあずかるにふさわしい者とされればされるほど、それだけいっそう危険にさらされるのです。

42:1 使徒たちは、わたしたちのために、主イエス・キリストから福音を受けました。キリストであるイエスは、神から遣わされました。42:2 ですから、キリストは神から、使徒たちはキリストから来たのです。こうして、その両方とも、神のみこころによって秩序正しく起こりました。42:3 ですから、使徒たちは言いつけを受けました。わたしたちの主イエス・キリストの復活によって、確信に満たされました。神のことばによって、信仰を固められました。そして、聖霊による確信をもって出て行き、神の国がやがて来ると、福音を告げ知らせたのです。42:4 こうして、使徒たちは地方や町々で宣べ伝えました。そして、その初穂となった人たちを御霊によって試したうえで、これから信じる人たちのための監督と執事に立てたのです。42:5 しかも、これは新しいことではありません。監督と執事については、実に、ずっと昔から書かれていたのです。聖書が、ある箇所でこう言っているのです。『わたしは、彼らの監督たちを義のうちに、彼らの執事たちを信仰のうちに立てる』（イザヤ六〇・一七）[1]。

訳注

1 イザヤ六〇・一七を自由に引いたもの。聖書のこの節に『執事』の語はない。

43〜48章　使徒が立てた人々と、コリントの内紛

43:1 それなら、何の不思議があるでしょうか。キリストにあって、このような働きを神からゆだねられた人たちが、先に述べた人々を立てたとしても。祝福された、全家に忠実なしもべであるモーセでさえ、自分に命じられたことをすべて、聖なる書物に書きしるしたのです。ほかの預言者たちもモーセに続き、彼が律法として定めたことに、ともにあかしを立てました。43:2 実際、祭司職をめぐってねたみが起こったことがありました。部族のうちのどれがあの栄えある名で飾られるのかと、部族どうしが内紛を起こしたのです。そのとき、モーセは十二人の族長に命じて、部族ごとにその名を書いたつえを、自分のもとに持って来させました。そして、それらを受け取ると、縛って、族長たちの指輪で封印しました。それから、それらを、あかしの幕屋の中の、神の机の上に置きました。43:3 また、幕屋を閉じると、そのかぎも、つえと同じように封印しました。43:4 そして、彼らに言いました。「兄弟たちよ、つえが芽を出す部族こそ、神が、祭司となってご自分に仕えるようにと選ばれた部族である」。43:5 さて、朝になると、モーセはイスラエルの全体、六十万人の男たちを呼び集めました。そして、族長たちに封印を示してから、あかしの幕屋を開き、つえを取り出しました。すると、アロンのつえは芽を出していただけでなく、実まで結んでいました。43:6 愛する者たちよ、どう思いますか。モーセは、こうなることを前もって知らなかったのでしょうか。もちろん、知っていました。しかし、イスラエルの中に混乱が起こらないように、こうしたのです。まことの唯一の神の御名が、あがめられるためです。この方に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

44:1 わたしたちの使徒たちもまた、わたしたちの主イエス・キリストによって知っていました。監督の職の名をめぐって、争いが起こることをです。44:2 ですから、このゆえに、使徒たちは完全な予知を受けて、先に述べた人々を立てたのです。そして、その後、定めを加えました[1]。彼らが眠りについたなら、ほかの、試しを経た人々が、彼らの務めを受け継ぐようにするためです。44:3 ですから、使徒たちによって立てられた人々がいます。あるいはその後、教会全体の同意を得て、ほかの名のある人々によって立てられた人々がいます。彼らは、キリストの群れに、責められるところなく仕えてきました。へりくだって、穏やかに、出しゃばらずに仕えてきたのです。また、長い年月、皆からあかしを受けてきました。そのような人々を務めから退けるのは、正しくないとわたしたちは考えます。44:4 監督の職の供え物を、責められるところなく、きよくささげてきた人々がいます。その人々を退けるなら、わたしたちにとって小さくない罪となるからです。44:5 先に旅路を終えた長老たちは幸いです。彼らは、実り豊かな、全うされた旅立ちを遂げました。だれかに、自分たちのために定められた場所から移されはしないかと、もう恐れることがないのです。44:6 実際、わたしたちは見ているのです。あなたがたは、立派に歩んでいたある人々を、彼らが責められるところなく果たしてきた務めから、移してしまいました。

45:1 兄弟たちよ、救いにかかわることについてこそ、競い合い、熱心でありなさい。45:2 あなたがたは、聖なる書をのぞき込んできました。それは真実な書であり、聖霊による書です。45:3 そこには、不正なことも、まがいのことも、何一つ書かれていないことを、あなたがたは知っています。正しい人々が、きよい人々によって退けられたことを、あなたがたはそこに見いださないでしょう。45:4 正しい人々は迫害されました。しかし、それは不法な者たちによってでした。牢に入れられました。しかし、それは神を恐れない者たちによってでした。石で打たれました。律法に背く者たちによってでした。殺されました。汚れた、不正なねたみを抱いた者たちによってでした。45:5 彼らは、これらの苦しみを受けて、誉れある姿で耐え抜きました。45:6 兄弟たちよ、わたしたちは何と言えばよいというのでしょうか。ダニエルは、神を恐れる人々によって、獅子の穴に投げ入れられたのでしょうか。45:7 あるいは、ハナニヤ、アザリヤ、ミシャエルは、火の炉に閉じ込められたのでしょうか。いと高き方に壮麗で栄光ある礼拝を

ささげる人々によってでしょうか。決してそんなことはありません。では、このようなことをしたのは、だれでしょうか。憎むべき者たち、あらゆる悪に満ちた者たちです。彼らは怒りにかられて、どこまでも争いを押し通しました。そして、きよく、非の打ちどころのない志をもって神に仕える人々を、責め苦の中に投げ込むまでになったのです。いと高き方は、清い良心をもってその徳に満ちた御名に仕える人々のために戦い、彼らを守る盾です。彼らは、そのことを知らなかったのです。この方に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。45:8 しかし、確信をもって耐え忍んだ人々は、栄光と誉れを受け継ぎました。高く上げられ、神によって、神の覚えのうちに世々限りなく書きしるされたのです。アーメン。

46:1 兄弟たちよ、ですから、わたしたちも、このような手本に結びつかなければなりません。46:2 こう書いてあるのです。『聖なる者たちに結びつけ。彼らに結びつく者たちは、きよめられるからである』[2]。46:3 また、別の箇所では、こう言われています。『罪のない人と共にいれば、あなたも罪のない者となる。選ばれた人と共にいれば、あなたも選ばれた者となる。ゆがんだ人と共にいれば、あなたもゆがむ』（詩篇一八・二五～二六）。46:4 ですから、罪のない人たち、正しい人たちに結びつきましょう。この人たちこそ、神に選ばれた者たちです。46:5 なぜ、あなたがたのあいだに、争い、怒り、仲たがい、分裂、そして戦いがあるのでしょうか。46:6 それとも、わたしたちは、一つの神、一つのキリスト、わたしたちの上に注がれた一つの恵みの御霊を、持っていないのでしょうか。キリストにある召しも、一つではないのでしょうか。46:7 なぜ、わたしたちは、キリストの肢体を引き離し、引き裂くのでしょうか。なぜ、自分自身のからだに逆らって内紛を起こすのでしょうか。なぜ、互いに肢体であることを忘れるほどの狂気に陥るのでしょうか。主イエスのことばを思い起こしなさい。46:8 主はこう言われたのです。『その人は、わざわいである。わたしの選んだ者のひとりをつまずかせるくらいなら、生れなかった方が、彼のためによかったであろう。わたしの選んだ者のひとりを惑わすくらいなら、ひきうすをかけられて海に沈められる方が、彼のためによかったであろう』。46:9 あなたがたの分裂は、多くの人を惑わしました。多くの人を落胆させ、多くの人を疑いに陥れ、わたしたちすべてを悲しみに沈めました。それなのに、あなたがたの内紛は、なおも続いているのです。

47:1 祝福された使徒パウロの手紙を、手に取りなさい。47:2 パウロは、福音が伝えられ始めたころ、何よりもまず何を、あなたがたに書き送ったでしょうか。47:3 まことに、パウロは御霊に導かれて、自分自身と、ケパと、アポロについて、あなたがたに書き送りました。そのころも、あなたがたが人をひいきにしていたからです。47:4 しかし、あのひいきがあなたがたにもたらした罪は、まだ小さなものでした。あなたがたがひいきにしたのは、皆にあかしされた使徒たちと、使徒たちに認められた人だったからです。47:5 しかし今、だれがあなたがたを惑わしたのかを、よく考えてみなさい。だれが、あなたがたの名高い兄弟愛の品位を損なったのかを。47:6 愛する者たちよ、恥ずべきことです。まことに恥ずべきことであり、キリストにあるふるまいにふさわしくないことです。あの実に堅固で古いコリントの教会が、一人か二人の者のゆえに、長老たちに逆らって内紛を起こしている、と聞こえてくるのは。47:7 しかも、このうわさは、わたしたちのところに届いただけではありません。わたしたちから心をほかへ傾けている者たちのところにまで届きました。そのため、あなたがたは、その愚かさのゆえに、主の御名への冒涜までも招いています。また、自分の身に危険を引き起こしているのです。

48:1 ですから、これをすみやかに取り除きましょう。主の前にひれ伏し、主に願い求めながら、泣きましょう。主があわれんでくださり、わたしたちと和解してくださるためです。そして、わたしたちの兄弟愛の、品位ある清いふるまいに、わたしたちを立ち帰らせてくださるためです。48:2 これこそ、いのちに向かって開かれた義の門なのです。こう書いてあるとおりです。『わたしのために義の門を開け。わたしがその内にはいって、主をほめたたえるためである。48:3 これは主の門である。正しい者はその内にはいるであろう』（詩篇一一八・一九～二〇）。48:4 ですから、多くの門が開かれていますが、義のうちにある門こそ、キリストにある門です。この門にはいる人は、みな幸いです。きよさと義のうちに自分の行く道をまっすぐにし、心を乱さずにすべてを成し遂げる人々です。48:5 人が信仰のある者であるなら、それもよいでしょう。知識を説き明かす

力があるなら、それもよいでしょう。言葉を見分ける知恵があるなら、それもよいでしょう。行いにおいて清いなら、それもよいでしょう。[48:5]その人は、自分が大きな者に見えるだけ、それだけいっそうへりくだらなければならないのです。そして、自分の益ではなく、すべての人に共通の益を求めなければならないのです。

訳注

1 原語の意味がはっきりしない。『職を永続させた』と直す説もある。
2 この言葉は今の聖書にない。出どころは分からない。

49〜55章　愛をたたえ、身を引くことを勧める

49:1 キリストにあって愛を持つ人が、キリストの教えを行うようにしましょう。49:2 神の愛の絆を、だれが説き明かすことができるでしょうか。49:3 その美しさの偉大さを、だれが十分に言い表せるでしょうか。49:4 愛が引き上げてくれる高みは、言い表すことができません。49:5 愛は、わたしたちを神に結びつけます。愛は多くの罪をおおいます。愛はすべてを忍び、すべてに寛容です。愛には、出しゃばるところも、高ぶるところも、何一つありません。愛は分裂を持たず、愛は内紛を起こさず、愛はすべてを心を一つにして行います。神に選ばれた者たちはみな、愛のうちに完全な者とされました。愛がなければ、神に喜ばれるものは何一つありません。49:6 主は、愛のうちにわたしたちを受け入れてくださいました。わたしたちの主イエス・キリストは、わたしたちを愛してくださいました。その愛のゆえに、神のみこころによって、わたしたちのためにご自分の血を与えられました。わたしたちの肉のためにご自分の肉を、わたしたちの魂のためにご自分の魂を与えられたのです。

50:1 愛する者たちよ、ごらんなさい。愛は、何と大きく、驚くべきものでしょう。その完全さは、説き明かすことができません。50:2 神がふさわしいとされる人々のほかに、だれが、愛のうちにいる者と認められるに足りるでしょうか。ですから、神のあわれみに願い、求めましょう。人へのひいきを離れて、非の打ちどころのない者として、愛のうちにいると認められるためです。50:3 アダムから今日までの世代は、みな過ぎ去りました。しかし、神の恵みにしたがって愛のうちに完全な者とされた人々は、敬虔な者たちの場所にいます。彼らは、キリストの国の訪れのときに、現されるでしょう。50:4 こう書いてあるのです。『しばらくのあいだ、へやにはいっていなさい。わたしの怒りと憤りが過ぎ去るまで。そして、わたしは良い日を思い出し、あなたがたを墓から起こす』（イザヤ二六・二〇、エゼキエル三七・一二）[1]。50:5 愛する者たちよ、愛による一致のうちに神の命令を行うなら、わたしたちは幸いです。そうして、愛によって、罪をゆるしていただけるのです。50:6 こう書いてあるのです。『不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである。罪を主に認められず、その口に偽りのない人は、さいわいである』（詩篇三二・一〜二）。50:7 この幸いは、わたしたちの主イエス・キリストによって、神に選ばれた人々に与えられたのです。この方に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

51:1 わたしたちは、敵対する者の何らかの攻撃のゆえに、踏み外し、過ちを犯しました。ですから、そのすべてを、ゆるしていただけるよう願い求めましょう。また、内紛と仲たがいの首謀者となった者たちも、皆に共通の望みに目を向けなければなりません。51:2 実際、恐れと愛をもって生きる人々は、隣人よりも、むしろ自分が責め苦に遭うことを望みます。また、わたしたちに立派に正しく伝えられてきた調和が責められるよりも、むしろ自分が責めを負うのです。51:3 人にとっては、心をかたくなにするよりも、過ちを告白するほうがよいからです。神のしもべモーセに逆らって内紛を起こした者たちの心が、かたくなになったようにです。彼らへの裁きは、はっきりと示されました。51:4 彼らは、生きたまま陰府に下ったのです。死が彼らを牧するでしょう。51:5 パロとその軍勢、エジプトの為政者たちもみな、そして戦車と騎兵たちも、紅海に沈んで滅びました。それは、ほかのどんな理由のゆえでもありません。神のしもべモーセによって、エジプトの地でしるしと不思議が行われました。それなのに、彼らの無知な心がかたくなになった、そのゆえなのです。

52:1 兄弟たちよ、万物の主は、何も必要とされない方です。だれからも、何一つお求めになりません。ただ、人がご自分に告白し、ほめたたえることだけを求められます。52:2 選ばれたダビデが、こう言っているのです。『わたしは主をほめたたえよう。これは、角とひずめのある若い雄牛にまさって、主を喜ばせるでしょう。貧しい者は、これを見て喜べ』（詩篇六九・三〇〜三二）。52:3 また、こう言われています。『賛美のいけにえを神にささげよ。あなたの誓いをいと高き

者に果せ。あなたの悩みの日にわたしを呼べ。わたしはあなたを助け、あなたはわたしをあがめるであろう』（詩篇五〇・一四～一五）。52:4『神へのいけにえは、砕けた霊』だからです（詩篇五一・一七）。

53:1 実際、愛する者たちよ、あなたがたは聖なる書を知っています。それも、よく知っています。そして、神のことばをのぞき込んできました。ですから、わたしたちは、あなたがたに思い起こしてもらうために、これらのことを書くのです。53:2 モーセが山に登り、四十日四十夜を、断食とへりくだりのうちに過ごしたときのことです。神は彼に言われたのです。『すみやかにこの所から降りなさい。おまえがエジプトの地から導き出したおまえの民は、悪を行ったからである。彼らは、おまえが命じた道を早くも離れて、鋳た像を自分たちのために造った』（申命記九・一二）。53:3 また、主は彼に言われました。『わたしは一度ならず二度も、おまえに言った。わたしはこの民を見たが、見よ、これは強情な民である。わたしを止めるな。わたしは彼らを滅ぼし、彼らの名を天の下から消し去ろう。そして、おまえを大いなる、驚くべき国民、これよりもはるかにまさる国民としよう』（申命記九・一三～一四）。53:4 すると、モーセは言いました。『主よ、決してそうなさらないでください。この民の罪をゆるしてください。さもなければ、わたしをも生ける者の書から消し去ってください』（出エジプト三二・三一～三二）。53:5 ああ、大いなる愛よ。ああ、この上ない完全さよ。しもべが主に向かって大胆に語り、民のためにゆるしを求めています。さもなければ、自分も彼らと共に消し去られることを願っているのです。

54:1 それでは、あなたがたのうちで、だれが気高い人でしょうか。だれが情け深い人でしょうか。だれが愛に満たされた人でしょうか。54:2 その人が、こう言うようにしましょう。「わたしのゆえに内紛や争いや分裂が起きているのなら、わたしは身を引きます。あなたがたの望むところへ去ります。会衆が命じることを行います。ただ、キリストの群れが、立てられた長老たちと共に平和であれば、それでよいのです」。54:3 これを行う人は、キリストにあって、自分のために大きな名声を得るでしょう。どこの場所も、その人を迎え入れるでしょう。地と、それに満ちるものとは、主のものだからです。54:4 神の、悔いのない生き方を歩む人々は、これまでこのように行ってきました。これからも、そうするでしょう。

55:1 さらに、異邦人の手本も挙げておきましょう。多くの王や為政者たちが、疫病の時が来たとき、神託を受けて、自分の身を死に渡しました。自分の血によって、市民を救うためです。多くの人が、自分の町から身を引きました。それ以上、内紛が起こらないようにするためです。55:2 わたしたちのあいだでも、多くの人が自分の身を鎖に渡したことを、わたしたちは知っています。ほかの人々を贖い出すためです。多くの人が、自分の身を奴隷として渡しました。そして、自分の代価を受け取って、ほかの人々を養いました。55:3 多くの女たちも、神の恵みによって力づけられ、多くの勇ましいわざを成し遂げました。55:4 祝福されたユディトは、町が包囲されていたとき、異邦の民の陣営へ出て行かせてほしいと、長老たちに願い出ました。55:5 こうして、彼女は危険に身をゆだねて出て行きました。祖国と、包囲されている民とへの愛のゆえです。すると、主はホロフェルネスを、女の手に渡されました。55:6 信仰において完全なエステルも、それに劣らず、自ら危険に身をさらしました。滅びようとしていたイスラエルの民を救うためです。彼女は、断食とへりくだりによって、すべてを見られる、世々の主に願い求めたのです。主は、彼女のへりくだった魂を見て、民を救われました。彼女は、その民のために危険を冒したのです。

訳注

1 二つの預言書を合わせた形。『良い日を思い出し』の句は聖書にない。

56〜59章　懲らしめを受け入れて従うよう勧め、祈る

56:1 ですから、わたしたちも、何かの過ちに陥っている人々のために、とりなしをしましょう。彼らに寛容とへりくだりが与えられ、わたしたちにではなく、神のみこころに従うようになるためです。そうしてこそ、深いあわれみをもって神と聖徒たちの前で彼らを覚えることが、彼らにとって実りある、完全なものとなるからです。56:2 愛する者たちよ、懲らしめを受け入れましょう。だれも、それに憤ってはなりません。わたしたちが互いにし合う戒めは、良いもので、この上なく益になります。わたしたちを神のみこころに結びつけるからです。56:3 聖なることばが、こう言っているのです。『主はいたくわたしを懲らされたが、死にはわたされなかった』（詩篇一一八・一八）。56:4 『主は愛する者を懲らし、受けいれるすべての子を、むち打たれる』からです（箴言三・一二）。56:5 こう言われているのです。『正しい者は、あわれみをもってわたしを懲らし、わたしを責めるであろう。しかし罪人たちの油をわがこうべにそそがせないでください』（詩篇一四一・五）。56:6 また、こう言われています。『主に責められる人は、さいわいだ。全能者の戒めを拒んではならない。彼は痛みを与え、また元どおりにされるのである。56:7 彼は撃ち、またその手をもっていやされる。56:8 彼は六度あなたを悩みから救い、七度目にも、災はあなたに触れることがない。56:9 ききんの時には、あなたを死から救い、いくさの時には、つるぎの力からあなたを解き放たれる。56:10 彼は舌のむちからあなたを隠される。災が来ても、あなたは恐れることはない。56:11 あなたは不正な者と不法な者とを笑い、野の獣をも恐れることはない。56:12 野の獣はあなたと和らぐからである。56:13 それから、あなたは自分の家が平和であることを知り、あなたの天幕の住まいは欠けることがない。56:14 また、あなたは、子孫が多くなり、あなたの子らが野のすべての草のようになるのを知るであろう。56:15 あなたは墓に入るであろう。時が来て刈り取られる熟した麦のように、あるいは、季節になって打ち場に集められる麦束のように』（ヨブ五・一七〜二六）。56:16 愛する者たちよ、ごらんなさい。主に懲らされる者たちには、何と大きな守りがあることでしょう。実際、主は善い父であって、わたしたちを懲らされます。そのきよい懲らしめによって、わたしたちがあわれみを受けるためです。

57:1 ですから、内紛の土台を据えたあなたがたは、長老たちに従いなさい。心のひざをかがめ、悔い改めに至るよう懲らしめを受けなさい。57:2 あなたがたの舌の、おごった高慢な身勝手を捨てて、従うことを学びなさい。実際、キリストの群れの中で、小さくても、名のある者と認められるほうが、あなたがたにとってよいのです。人より上に立っていると思われながら、キリストの望みから投げ出されるよりは、そのほうがよいのです。57:3 あらゆる徳をそなえた知恵が、こう言っているのです。『見よ、わたしは自分の息の言葉を、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに教える。57:4 わたしは呼んだが、あなたがたは聞き従わず、言葉を述べ広げたが、あなたがたは顧みなかった。かえって、あなたがたはわたしの勧めをむなしいものとし、わたしの叱責に従わなかった。それゆえ、わたしもまた、あなたがたが滅びる時に笑い、滅びがあなたがたに来る時、喜ぶであろう。それは、騒ぎがにわかにあなたがたに臨み、破滅があらしのように来る時、あるいは、悩みと包囲とがあなたがたに臨む時である。57:5 あなたがたがわたしを呼ぶ時が来るのである。しかし、わたしはあなたがたに答えない。悪い者たちはわたしを求めるが、見いだせない。彼らは知恵を憎み、主を恐れることを選ばず、わたしの勧めを顧みようとせず、わたしの叱責をあざけったからである。57:6 それゆえ、彼らは自分の道の実を食らい、自分の不敬虔に飽きるであろう。57:7 彼らは幼い者たちに不正を行ったので、殺され、審問が不敬虔な者たちを滅ぼすのである。しかし、わたしに聞き従う者は、望みのうちに信頼して住まう。そして、どんな災も恐れることなく、安らぐであろう』（箴言一・二三〜三三）。

58:1 知恵によって、不従順な者たちへの脅しが前もって告げられました。ですから、それを逃れ、神のこの上なく聖なる、栄光ある御名に聞き従いましょう。それは、神の威光のこの上なくきよい御名に信頼して、住まうためです。58:2 わたしたちの勧めを受け入れなさい。そうすれば、あなたがたは悔いることがないでしょう。実際、神は生きておられます。主イエス・キリストも、聖霊も生きておられます。この方々は、選ばれた者たちの信仰であり、望みです。それと同じほど確かなことがあります。へりくだりのうちに、ひたむきな寛容をもって、神から与えられたおきてと命令を、悔いることなく行う人がいます。その人は、イエス・キリストによって救われる者たちの数の中に加えられ、名のある者となるのです。キリストによって、神に栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

59:1 しかし、もしある人々が、神がわたしたちによって語られたことに従わないなら、その人々が、次のことを知るようにしましょう。彼らは、自分を過ちと少なからぬ危険とに縛りつけることになるのです。59:2 しかし、わたしたちは、この罪について責任のない者となります。そして、ひたむきに祈り、願いをささげて、求めます。万物の創造者が、全世界でご自分の選ばれた者たちの、数えられた数を、欠けることなく守ってくださるように。愛するしもべイエス・キリストによってです。神は、このしもべによって、わたしたちを暗やみから光へ、無知から御名の栄光を深く知ることへと召してくださいました。59:3 主よ、わたしたちに、すべての造られたものの源である、あなたの御名に望みを置かせてください[1]。あなたは、わたしたちの心の目を開いて、あなたを知るようにしてくださいました。あなただけが、いと高き所にいます、いと高き方です。聖なる者たちのうちにいこわれる、聖なる方です。あなたは、高ぶる者たちの高慢を低くし、国々のたくらみを打ち砕かれます。低い者を高くあげ、高い者を低くされます。富ませ、また貧しくされます。殺し、また生かされます。あなただけが、霊を見いだされる方であり、すべての肉なる者の神です。あなたは、深淵を見下ろし、人のわざを見ておられます。危険の中にある者の助け手、望みを失った者の救い主です。すべての霊の造り主であり、見守る方です。あなたは、地の上に国々を増し加え、そのすべての中から、あなたを愛する者たちを選ばれました。愛するしもべイエス・キリストによってです。あなたは、この方によって、わたしたちを教え、きよめ、尊いものとしてくださいました。59:4 主よ、あなたに願います。わたしたちの助け手となり、支え手となってください。わたしたちのうちで苦しみの中にある者たちを救ってください。低い者たちをあわれんでください。倒れた者たちを起こしてください。乏しい者たちに現れてください。病む者たちをいやしてください。あなたの民のうちで迷っている者たちを連れ戻してください。飢えている者たちを満ち足らせてください。わたしたちのうちで捕らわれている者たちを贖い出してください。弱っている者たちを立ち上がらせてください。気落ちしている者たちを励ましてください。すべての国々が、あなたを知りますように。あなただけが神であり、イエス・キリストはあなたのしもべであり、わたしたちはあなたの民、あなたの牧の羊であることを。

訳注

1 ここは原文が欠けているとみられ、『主よ、わたしたちに』と願いの形を補って訳した。

60〜65章、題　祈りを結び、手紙を締めくくる

60:1 実際、あなたは、さまざまな働きによって、世の尽きることのない成り立ちを明らかにされました。主よ、あなたは人の住む世界を造られました。あなたは、すべての世代に真実であり、裁きにおいて正しく、強さと壮麗さにおいて驚くべき方です。造ることにおいて知恵があり、造られたものを据えることにおいて悟りのある方です。見えるものにおいて善く、あなたに信頼する者たちに恵み深い方です。あわれみ深く、情け深い方よ、わたしたちの不法と不正を、過ちとがを、ゆるしてください。 60:2 あなたのしもべたち、はしためたちのどんな罪も数えないでください。かえって、あなたの真理のきよめによって、わたしたちをきよめてください。わたしたちの歩みを導いて、心のきよさのうちに進ませてください。そして、あなたの前とわたしたちの支配者たちの前に、良いこと、喜ばれることを行わせてください。 60:3 そうです、主よ、わたしたちの幸いのために、平和のうちに、わたしたちの上に御顔を照らしてください。わたしたちが、あなたの力強い御手によって覆い守られ、あなたの高く上げた腕によって、すべての罪から救い出されるためです。また、わたしたちを不当に憎む者たちから、わたしたちを救い出してください。 60:4 わたしたちにも、地に住むすべての人々にも、一致と平和を与えてください。わたしたちの先祖たちに与えられたようにです。彼らは、信仰と真理のうちに、きよくあなたを呼び求めたのです。わたしたちが、全能の栄光ある御名にも、この地のわたしたちの支配者たち、為政者たちにも従う者となるようにしてください。

61:1 主よ、あなたは、その大いなる、言い表せない力によって、彼らに王としての権威を与えられました。それは、わたしたちが、あなたから彼らに与えられた栄光と誉れを知って、彼らに従うためです。あなたのみこころに少しも逆らわずにです。主よ、彼らに、健康と平和と一致と安定を与えてください。彼らが、あなたから与えられた支配を、滞りなく行うためです。 61:2 天におられる主よ、世々の王よ、人の子らに、栄光と誉れと、地にあるものを治める権威とを与えておられるのは、あなたなのです。主よ、あなたの前に良いこと、喜ばれることにかなうように、彼らの思いを導いてください。彼らが、あなたから与えられた権威を、平和と柔和のうちに、敬虔に行い、あなたのあわれみを受けるためです。 61:3 あなただけが、これらのこと、またこれにまさる良いことを、わたしたちにしてくださることがおできになります。わたしたちは、わたしたちの魂の大祭司であり、保護者であるイエス・キリストによって、あなたをほめたたえます。この方によって、あなたに、栄光と威光が、今も、すべての世代にわたって、世々限りなくありますように。アーメン。

62:1 兄弟たちよ、わたしたちは、わたしたちの礼拝にふさわしいことについて、もう十分に書き送りました。また、敬虔に、正しく歩みを導きたいと願う人々にとって、徳のある生き方のために最も益となることについてもです。 62:2 実際、わたしたちは、信仰について、悔い改めについて、まことの愛、自制、慎み、忍耐について、あらゆる点に触れました。そして、あなたがたが、義と真理と辛抱強さのうちに、全能の神にきよく喜ばれなければならないことを、思い起こさせました。恨みを抱かず、愛と平和のうちに、ひたむきな寛容をもって心を一つにしてです。先に示したわたしたちの先祖たちも、そのようにして神に喜ばれたのです。彼らは、父であり造り主である神に対しても、すべての人に対しても、へりくだった思いを持っていました。 62:3 わたしたちは、なおさら喜んで、これらのことを思い起こさせました。わたしたちが書き送っている相手は、忠実で、この上なく名のある人々です。神の教えのことばをのぞき込んできた人々です。わたしたちは、そのことをはっきり知っていたからです。

63:1 ですから、これほど優れた、これほど多くの手本に心を向けて、首を垂れ、従う者の持ち場を占めるのが、道にかなったことです。それは、むなしい内紛をやめて、真理のうちにわたしたちの前に置かれている目標に、何の非難も受けずに行き着くためです。 63:2 実際、聖霊によってわたしたちが書いたことに従

う者となるなら、あなたがたはわたしたちに喜びと楽しみをもたらすでしょう。この手紙で、わたしたちは平和と一致について訴えました。そのとおりに、あなたがたのねたみの、道にはずれた怒りを断ち切るならです。63:3 わたしたちは、忠実で慎み深い人々を遣わしました。彼らは、若いころから老年に至るまで、わたしたちのあいだで責められるところなく歩んできました。彼らは、あなたがたとわたしたちのあいだの証人ともなるでしょう。63:4 わたしたちがこうしたのは、あなたがたに知ってもらうためです。わたしたちのあらゆる心配りは、あなたがたが速やかに平和になることに向けられてきましたし、今も向けられているのです。

64:1 最後に、すべてを見られる神は、霊の主、すべての肉なる者の主です。神は、主イエス・キリストを選び、この方によってわたしたちを選んで、ご自分の宝の民とされました。この神が、その大いなる聖なる御名で呼ばれている、すべての魂に与えてくださいますように。信仰、恐れ、平和、忍耐と辛抱強さ、自制、清さ、慎みを。神の御名に喜ばれる者となるためです。わたしたちの大祭司であり、保護者であるイエス・キリストによってです。この方によって、神に、栄光と威光、力と誉れが、今も、いつまでも、世々限りなくありますように。アーメン。

65:1 わたしたちは、クラウディウス・エフェボスとウァレリウス・ビトンを遣わしました。この二人を、フォルトゥナトゥスとともに、平和のうちに喜びをもって、早くわたしたちのもとへ送り返してください。わたしたちが祈り願い、慕い求めている平和と一致を、彼らが少しでも早く知らせてくれるためです。わたしたちも、あなたがたの安定を早く喜ぶことができるためです。65:2 わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように。また、神がキリストによって召された、いたる所のすべての人々とともにありますように。キリストによって、神に、栄光、誉れ、力と威光、また永遠の御座が、世々の初めから世々限りなくありますように。アーメン。

SB:1 ローマの人々からコリントの人々への手紙1

訳注

1 ほかの写本の多くは、題でこの手紙をクレメンスのものとする。

クレメンスへの第一の手紙

2026年11月23日版
著者　ローマのクレメンス
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/first-clement/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/first-clement
全文を、ギリシア語原文（Κλημέντος προς Κορινθιούς Α）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。